

第5回コミュニティバス検討会議の発言内容

【基本運賃について】

- 1 150円が事務局案だが、路線バスとちゅうバスで運賃が異なることが不公平感としてあるので、その解消という観点からは180円の方がいい。
- 2 運行間隔、運行時間帯、乗車時間等サービス面で路線バスと差があり、ICカード割引がないことで路線バスより高くなる場合があるのは理解をされにくいことから、150円の方がいい。
- 3 今後路線変更を行う場合には、路線バスをちゅうバスにしたり、ちゅうバスを路線バスにしたりして、より重複区間がなくなる方向としていくのであれば、150円の方が理解を得られやすいのではないかと。

【割引制度について】

- 1 高齢者と障がい者に割引をするのは、交通弱者の社会参加支援という当初の目的を踏襲している点でいい。
- 2 高齢者に対しては、市内の全対象者に証明書を発送するのが事務局案だが、その方法は公平で、ちゅうバスをPRすることで交通弱者支援を拡大するとともに収益増につながる可能性もあることから、いい方法だと思う。
- 3 カード類を多く持つのは高齢者にとっては負担になり、全員に発送してまで割り引くなら、かえって割引は無いほうがいい。
- 4 高齢者割引は、今後高齢化が進み財政負担が大きくなっていくことが見込まれることから、将来の収支を見通す必要がある。
- 5 高齢者割引を導入した方が市民の理解を得られやすい。将来的に負担が増えた時の対応は、その時の財政状況を踏まえこの会議で再度検討すればよい。
- 6 高齢化は急速に進むことが想定されるため、数年程度で再び見直しの必要が生じることはないよう、10年間程度の予測は踏まえて検討した方がいい。
- 7 割引は全区分で府中市民に限るとの事務局案だが、市民に限るべきかという点については議論が必要である。
- 8 高齢者割引は、高齢者の運転免許証の返納を促進できる側面もあることから、導入したほうが良い。

【路線バスとちゅうバスの役割分担について】

- 1 路線バスと同じかそうでないかという点は整理するべき。基本運賃との関係では、路線バスとは別物として運営し、役割分担を明確化していくの

であれば150円とする整理が良く、反対に路線バスと競合を考慮しないのであれば150円とする理屈は立たないのではないか。

- 2 ちゅうバスは路線バスの補完的な役割を果たす。主たる運行地域として、若く健康な方なら徒歩や自転車ですりところ、少し移動が困難な方では交通手段がなく、採算が合わないため路線バスが運行しないような地域を集中して運行するのであれば、路線バスとは明らかに異なる役割を果たしているといえる。